

西野 恭子(にしのやすこ)さん

国際協力機構関西センター(JICA関西)所長。1985年に国際協力事業団(現在の国際協力機構)に入団。人間開発部保健人材育成チーム長、内閣府男女共同参画局国際課課長補佐(出向)、スリランカ事務所次長、ジェンダー平等・貧困削減推進室長、広報室長、評価部長等を経て、2017年7月より現職。



特集

SDGsとジェンダー平等・女性のエンパワメント

1 SDGsと目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

右図のような17の課題が描かれたアイコンを目にしたことはありませんか。これらはSDGs(エス・ディー・ジーズ:持続可能な開発目標)を表しています。2015年9月に国連で採択された決議「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中に掲げられた世界目標で、2030年までの達成をめざす17の目標と、それらをより具体的に示す169のターゲットから成ります。

SDGsの前にも国連はMDGs(ミレニアム開発目標)を定めていましたが、SDGsにはMDGsにはなかった特徴があります。まず、MDGsが途上国の課題を対象としていたのに対し、SDGsは先進国を含む世界共通の目標である点です。MDGsでは貧困や飢餓、教育、保健、ジェンダー平等など社会面での目標が中心でしたが、SDGsにはそれに加えて、エネルギーや都市問題、気候変動など環境面や、経済成長・雇用、産業といった経済面の目標が増えました。例えば目標12の「つくる責任つかう責任」は、先進国で暮らす私たち一人ひとりにも自分の暮らしを見直すことを求めています。

また、SDGsは未来志向の目標です。MDGsを含め目標は過去の実績や現状から積み上げて設定することが一般的ですが、SDGsではまず2030年に理想とする世界を描き、その実現のために今何をすべきかを考えました。ターゲット1.1「2030年までにあらゆる場所で極度の貧困(1日1.25ドル未満で生活する人々)を終わらせる」を見てもわかるように、野心的ともいえる目標で、その達成にはこれまでとは違うやり方、革新的なアプローチが必要です。そのため、SDGsではこれまで以上に国やセクターの垣根を超えた連携、パートナーシップが重視されています。

そして、「誰ひとり取り残さない」がSDGsを貫く大切な基本理念です。MDGsでは目が届いていなかった格差の問題、国と国との格差や一つの国の中での格差が広がる中、脆弱な立場にある人々に目を向け、包摂的な社会をめざします。

そのSDGsの5番目の目標がジェンダー平等です。ターゲットには、女性に対する暴力や児童婚などの有害な慣行を撤廃することや、あらゆるレベルの意思決定への女性の参画の確保、そのための政策や法律の導入・強化などが記されています。

また、ジェンダー平等は同時に他のすべての目標にも関わってきます。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」前文では、「これら(SDGs)は、すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワメントを達成することをめざす」と謳っています。本文でも、「ジェンダー平等の実現と女性・女児の能力強化は、すべての目標とターゲットの進展において決定的に重要な貢献をする」(パラグラフ20.)と述べられており、各目標やターゲットの中にもジェンダーの視点が盛り込まれています。



2 目標5達成のための取組み～JICAの途上国での協力

日本は安倍首相が本部長を務めるSDGs推進本部を設置し、積極的に取組みを進めています。2016年12月にSDGs実施指針を策定し、その中で日本国内での実施と国際協力の両面で取組みを進めることとしています。また、ジェンダー平等の実現とジェンダーの視点の主流化がSDGsのすべての目標の実現に不可欠であることや、ジェンダー統計を充実することなども盛り込まれています。

JICAは日本のODA(政府開発援助)の実施機関として、SDGs実施指針をふまえ、開発途上国への国際協力を通じてSDGs達成に取り組んでいます。目標5に関連する取組みをいくつかご紹介しましょう。



一つ目は、アフガニスタンでの女性警察官の育成支援です。アフガニスタンでは残念なことに、多くの女性がDVを含む様々な形の暴力被害にあっていますが、警察官に女性が占める割合が4%程度と低く、被害女性の保護や適切な支援が課題です。JICAでは女性警察官に被害女性への支援のあり方を学ぶ機会を提供しており、これまでに約1000人が研修を受けました。これはアフガニスタンの全女性警察官の3割に相当し、彼女たちは学びの成果をいかして各地で活躍しています。この研修について、漫画家井上きみどりさん執筆のマンガがウェブで公開されているので、是非ご覧ください。[「なんプロ」]「アフガン」[「警察官」で検索]。



https://www.jica.go.jp/topics/2018/20180607_01.html



◀日本発祥の母子手帳は世界に広がり、お母さんと赤ちゃんの健康を守っている

▶デリーの地下鉄は今や女性にとって不可欠の交通手段(写真提供:久野真一/JICA)



農業分野でもジェンダーの視点をとり入れた事業を進めています。アフリカの多くの国では女性が農業の主要な担い手ですが、何を栽培するかを決めたり農業技術の研修を受けるのは男性ばかりで、家計も男性が管理しています。そうした中、ケニアの農業プロジェクトでは、研修への参加を男女半々とし、農業技術やジェンダー、家計管理について学ぶ研修を行いました。男女を「共同経営パートナー」として捉え直したこのプロジェクトでは、男性も女性も所得が増加し、特に女性の増加率が高く男女の所得差が狭まりました。このアプローチをケニア以外の国々にも広めるとともに、ジェンダーの視点からの取組みをさらに深め、実践しやすい形で知見や教訓をまとめるためのプロジェクトも実施しました。

他にも、女性や女の子が被害者になりやすい人身取引問題に、タイ、ミャンマー、ベトナムなどのメコン地域の国々と共に取り組むプロジェクトや、母子保健サービスの向上を通じてお母さんと赤ちゃんの健康を守るための協力、安心安全な交通手段を提供して女性の行動範囲を広げたインド・デリーの地下鉄整備など、様々な協力を通じてジェンダー平等と女性のエンパワメントを推進しています。

(次頁に続き)

3 関西一丸となってSDGs達成をめざす

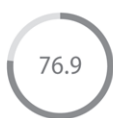
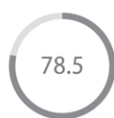
JAPAN

OECD Countries

▼ OVERALL PERFORMANCE

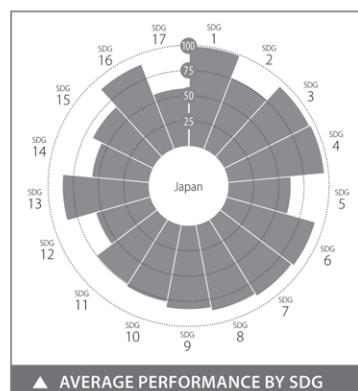
Index score

Regional average score



SDG Global rank

15 (OF 156)



▼ CURRENT ASSESSMENT -

進捗が遅れている



▼ SDG TRENDS



Notes: The full title of Goal 2 "Zero Hunger" is "End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture."
The full title of each SDG is available here: <https://sustainabledevelopment.un.org/topics/sustainabledevelopmentgoals>

目標5ジェンダー平等、目標12責任ある消費と生産、目標13気候変動など、色の濃いアイコンは進捗が遅れている

開発途上国での協力事例を紹介しましたが、男女間の意思決定への参画や経済面での格差、女性に対する暴力の問題など、多くの課題は日本でも共通しています。SDGsの国ごとの進捗状況を分析した報告書(SDG Index and Dashboards Report 2018)では、日本は全体としては達成状況が良く156か国中15位ですが、目標12「つくる責任つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」などと並んで目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の進捗の遅れが指摘されています。

昨年12月にSDGsに関西全体として取り組むための枠組みとして「関西SDGsプラットフォーム」が発足しました。関西の自治体、企業、NGO/NPO、大学などが連携してSDGsへの理解を深め、国内外のSDGs達成に向けた

取り組みを促進することをめざしています。JICA関西は近畿経済産業局、関西広域連合とともにプラットフォームの事務局を担っています。

既に370以上の団体が参加していますが、ジェンダー関連の活動を行う団体にも是非このプラットフォームに加わってもらい、活動を積極的に発信してもらえればと期待しています。セクターを超えて多種多様なアクターが集うプラットフォームには、新たな交流や協働のポテンシャルがあります。また、今後SDGsの目標毎の分科会など、様々な活動が展開される予定ですが、そうした活動の中にもジェンダーの視点が取り込まれることが重要です。「誰ひとり取り残さない」社会の実現のために、関西の力を集結して取り組んでいければと思います。